

志子田徹『ルポ 地域再生 なぜヨーロッパのまちは元気なのか?』

イースト新書 2018 年

グループ発表の総括

1. 地域再生は、危機的状況の本質に向き合い、真剣に取り組むことで持続可能な強い街を作ることが可能となる。 *何か問題か*
2. 都市発の文化を地方が後から受け入れるのではなく地方で光っているモノを世界へ発信することが大事。
3. 新しいモノばかりに目を向けるのではなく、すでにあるモノを利用することが重要。 *地域をふり返って*
4. 地域再生は国から地域ではなく地域から国のボトムアップで実現する。
5. 地域の活性化はエネルギー自給にかかっている。
6. 日本は地熱エネルギーが豊富だが十分に活用されていない。
7. 地域に愛着と誇りを持ち、自分たちでまちを再生させようという気持ちを持つことが大事。
8. 地域の理想像を具体的に描かずして未来に踏み出すことは出来ない。
9. 「地域の地域による地域のための取り組み」を促すことが必要。
10. 「まちづくり」や「市民運動」への関わり方が、日本ではなんとなく「特別」な活動だと受け止められている。 *欧米は日常の気軽*

評価・見解

現在の日本において、地域再生は最も重要な課題の一つである。筆者が述べるように日本人は「まちづくり」をどこか他人事のようにとらえているように思える。しかし、地域の再生に直接関わっていくのは政府ではなく、その地域に住む人たち自身である。自らの地域の魅力を知り、愛着を持つことによって「まちづくり」は行われていく。地域活性化の先進地域で行われていた取り組みをそのまま自分たちの地域に導入しようとしても失敗する可能性が高い。当事者が地域の特徴を知り、考え、実践し、失敗から学び、能動的に挑戦することではじめて地域の課題を解決しうる策が生まれるのではないだろうか。